

PRESS RELEASE

2025年1月9日
株式会社 ispace

ispace、ミッション2の打ち上げ予定日を発表！

RESILIENCE ランダー & *TENACIOUS* ローバーの打ち上げは2025年1月15日（水）

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は本日、日本橋浜町の ispace 本社にて記者会見を開催し、Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”（以下ミッション2）の打ち上げ予定日が、2025年1月15日（水）に確定したことを発表しましたのでお知らせいたします。

打ち上げ予定日時： 2025年1月15日（水）*1 午後3時11分（日本時間）
午前1時11分（米国東部時間）

打ち上げ場所： 米国フロリダ州ケネディー宇宙センター 39A 射点

*1 上記の日時は、天候等の状況に応じて変更となる可能性があります。

また、本記者会見では、ispace のコーポレートパートナーであるシチズン時計株式会社のグループ会社、シチズン TIC 株式会社のカウントダウンビジョン CDV-100 を活用した、ミッション2のカウントダウン・クロックを初お披露目しました。このクロックには、打ち上げまでの詳細な時間が表示され、打ち上げ後は着陸までのカウントダウンに切り替わり、ispace の再挑戦までの時を共に刻む予定です。



カウントダウン・クロックの前で株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史（左）とシチズン時計株式会社 事業企画センター 宣伝部 部長 田中繁 様（右）

■ ミッション2で輸送するペイロードについて

ispace はミッション2の RESILIENCE ランダーに6つのペイロードを搭載し、輸送します。

- HAKUTO-Rのコーポレートパートナーである高砂熱学工業株式会社の月面用水電解装置
- 株式会社ユーグレナの月面環境での食料生産実験を目指した自己完結型モジュール
- 台湾の国立中央大学宇宙科学工学科が開発する深宇宙放射線プローブ
- 株式会社バンダイナムコ研究所の「GOI 宇宙世紀憲章プレート」
- ispaceの欧州法人 ispace EUROPEが開発したマイクロローバー”TENACIOUS”
- スウェーデンのアーティストによるムーンハウスと呼ばれる赤い小さな家

また、RESILIENCE ランダーには、人類の言語と文化遺産を保護したユネスコのメモリーディスクも搭載しています。

■ ミッション2マイルストーン

ispace は打ち上げから月面着陸まで、10段階のマイルストーンを設定しました。各マイルストーンには基準を設け、達成を目指します。基準に基づき評価された結果は、後続する開発中のミッションに適宜フィードバックされます。

| | マイルストーン | クライテリア |
|-----------|------------------------|--|
| Success 1 | 打ち上げ準備の完了 | <ul style="list-style-type: none"> • RESILIENCE ランダーすべての開発工程を完了 • 打ち上げロケットへの搭載が完了 • 世界の多様な地域で柔軟にランダーを組み立てることが出来る能力の実証 |
| Success 2 | 打ち上げ及び分離の完了 | <ul style="list-style-type: none"> • ロケットからランダーの分離が完了 • ランダーの構造が打ち上げ時の過酷な条件に耐えられること、および設計の妥当性を再確認するとともに、将来の開発・ミッションに向けたデータを収集 |
| Success 3 | 安定した航行状態の確立 | <ul style="list-style-type: none"> • ランダーと管制室との通信を確立し、姿勢の安定を確認するとともに、軌道上で安定した電源供給を確立 |
| Success 4 | 初回軌道制御マヌーバの完了 | <ul style="list-style-type: none"> • 初回の軌道制御マヌーバを実施し、ランダーを予定軌道へ投入 |
| Success 5 | 月フライバイの完了 | <ul style="list-style-type: none"> • 打ち上げ約1か月後に、月フライバイを完了 • 深宇宙航行を開始 |
| Success 6 | LOI 前全ての深宇宙軌道制御マヌーバの完了 | <ul style="list-style-type: none"> • 太陽の重力を利用した全ての深宇宙軌道制御マヌーバを完了し、月周回軌道投入マヌーバの準備を完了 • ispaceの深宇宙におけるランダー運用能力と、航行軌道計画を再実証 |
| Success 7 | 月周回軌道への到達 | <ul style="list-style-type: none"> • 最初の月周回軌道投入マヌーバによるランダーの月周回軌道投入の完了 • ランダーとペイロードを月周回軌道に投入する能力を再実証 |

| | | |
|-------------------|-------------------------|--|
| Success 8 | 月周回軌道上でのすべての軌道制御マヌーバの完了 | <ul style="list-style-type: none"> 着陸シーケンスの前に計画されている全ての月軌道制御マヌーバを完了 ランダーが着陸シーケンスの開始準備が出来ていることを実証 |
| Success 9 | 月面着陸の完了 | <ul style="list-style-type: none"> 月面着陸を完了させ、今後のミッションに向けた着陸能力を実証 |
| Success 10 | 月面着陸後の安定状態の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 着陸後の月面での安定した通信と電力確保を確立 |

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「TENACIOUS ローバーを搭載した RESILIENCE ランダーは、Falcon 9 ロケットに搭載が完了し、もうまもなく打ち上げ準備が整います。共に歩み続けてくれる全ての従業員、ご家族、私たちのビジョンに共感し信じ続けてくれる株主、HAKUTO-R パートナー、お客様や政府関係者、すべての皆様の想いと共に、このミッション 2 を成功させます。これは、ispace にとって新たな章の幕開けとなります。」

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げは 2025 年 1 月 15 日ⁱに、ミッション 3 は 2026 年ⁱⁱ、ミッション 6 は 2027 年にⁱⁱⁱ打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 ヘフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1>)について

HAKUTO-R は、ispace が行うミッション 1 およびミッション 2 を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の 2 回のミッションを行う。SpaceX の Falcon 9 を使用し、2022 年にミッション 1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2025 年 1 月 15 日^{iv}にミッション 2（月面探査ミッション）の打ち上げを行う予定。

オフィシャルパートナーである株式会社三井住友銀行により命名された Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”には、新たな始まりやチャンスの意が込められている。

HAKUTO-R はオフィシャルパートナーとして株式会社三井住友銀行、コーポレートパートナーとして、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、SMBC 日興証券株式会社、S k y 株式会社、Epiroc AB、株式会社ジーンズ、栗田工業株式会社が参加している。

i 2025 年 1 月時点の想定

ii 2025 年 1 月時点の想定

iii 2025 年 1 月時点の想定

iv 2025 年 1 月時点の想定